

2-6. 鳥取市

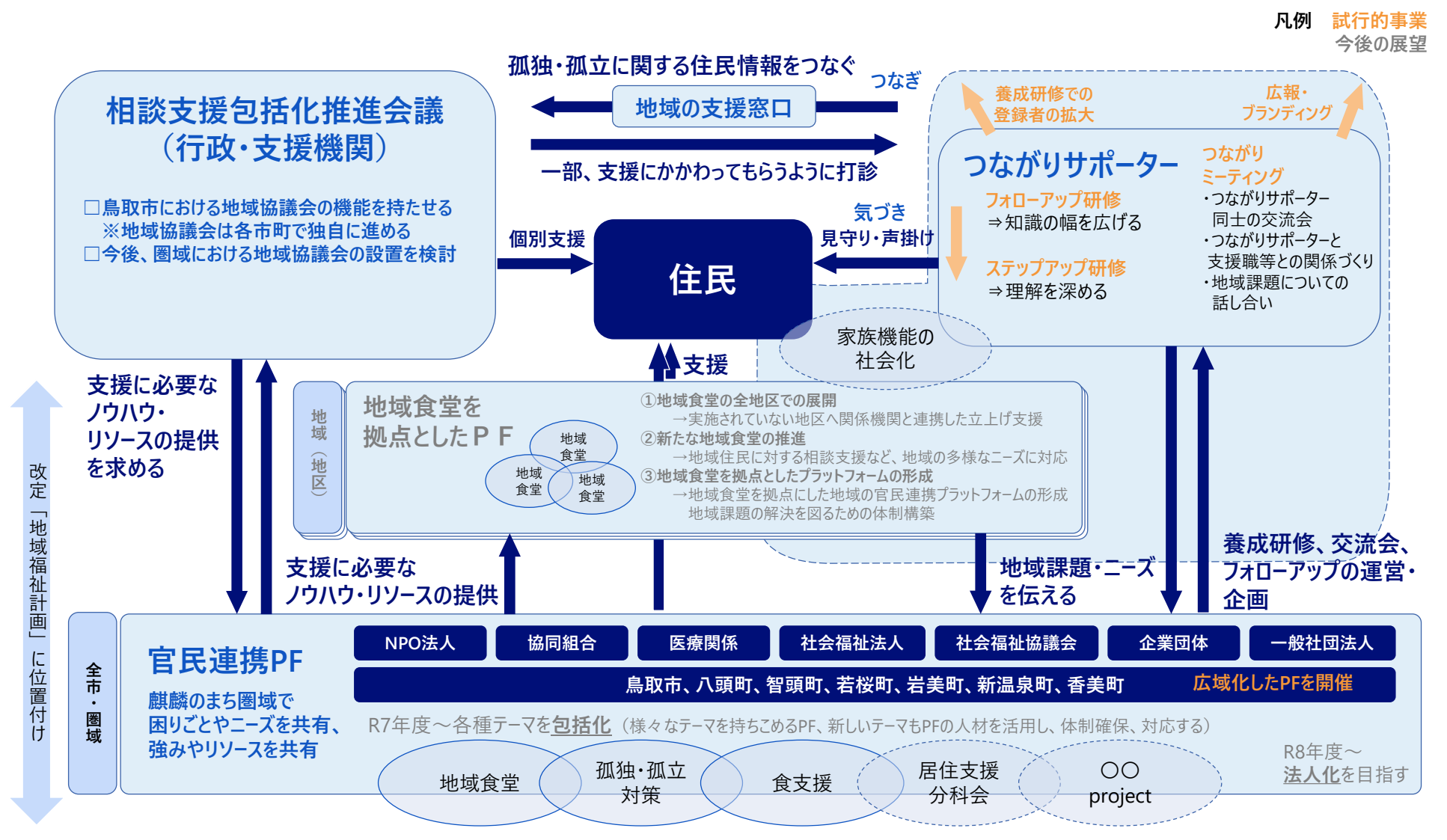
No.	6	鳥取市
-----	---	-----

1. 取組の全体像						
1. 自治体の概要						
①	自治体名	鳥取市		②	担当部局名	鳥取市総務部人権政策局 中央人権福祉センター
③	人口	188,465(人) <令和2年10月/国勢調査>				
④	自治体内 連携	庁内連携部局(メイン)		鳥取市総務部人権政策局 中央人権福祉センター		
			庁内連携内 ※会議体、情報共有	・中心となって孤独・孤立対策を推進		
		庁内連携部局(メンバー)		総務部人権政策局(人権推進課)、福祉部(地域福祉課、長寿社会課、中央包括支援センター)		
			庁内連携内容 ※会議体、情報共有	・関係機関(市役所内の部署、社会福祉協議会等の関係団体)との連絡調整(地域包括ケアシステム推進連絡会議)		
2. 形成をめざす地方版連携PFの姿						
①	従前の 取組 ※重層の取組、外部組織連携、地域コミュニティ形成等	- 平成 30 年に初めて地域福祉推進計画を作成、まず包括的支援体制の整備に取り掛かり、その後、重層的支援体制整備事業に移行。 - アウトリーチ等を通じた継続的支援を実施中。 - 令和4年度に鳥取市孤独・孤立対策官民連携PFを構築 - 令和5年度に生活圏の中核である鳥取市と周辺市町との連携の必要性から、7 月に「麒麟のまち連携中枢都市圏」である鳥取県周辺4町(智頭町、八頭町、若桜町、岩美町)、兵庫県2町(新温泉町、香美町)の各町担当課に説明し賛同を得る。その後鳥取市長より連携PFの推進を表明し、10 月に各町担当者会議を開催。11 月 2 日に広域展開する方針を創生戦略会議(首長会議)で方針を決定した。				
②	実現したい 状態 ※構築する仕組み/支援対象の住民を取り巻く環境	今年度のゴール		- 各自治体での研修の開催やつながりサポーター養成研修を通じて、広域でのPFを実効的なものとする。 - 鳥取市内における支援者同士のつながりを強化すること。 - つながりサポーターの拡大だけでなくつながりサポーターのステップアップを図ること。		
		最終的なゴール		- つながる:困難を抱えている人が声を上げやすい地域にする。 - つなぐ:孤独に陥りそうな方に、関わらないようにするのではなく、地域全体で心配・気配りができるような地域にする。 - 場づくり:行政の制度で支援が及ばぬ住民等に対する個別支援事例の積み上げにより、地域における孤独孤立の問題の解決の仕組化を目指す。(社会資源の開発) ⇒上記を「麒麟のまち圏域」で実現する		

3. 地方版連携PFにおける連携体制			
①	地方版連携PF	立ち上げ年度	令和4年度 ※広域PFは令和6年度
		参画メンバー	NPO 法人、協同組合、社会福祉法人、医療関係組織、一般社団法人、地域食堂ネットワーク(郵便局、銀行、IT 企業)、人権教育推進協議会、鳥取市、八頭町、智頭町、若桜町、岩美町、新温泉町、香美町
		選出・打診時の工夫	孤独・孤立に関する住民接点を持つ団体を選出 麒麟のまち圏域での広域でのPFを形成する
②	地域協議会 ※特に専門性の高い支援を行う団体等で構成	立ち上げ年度	未(※代替あり)
		参画メンバー	※鳥取市では、重層的支援体制における「相談支援包括化推進会議」を地域協議会の役割として活用する。
		選出・打診時の工夫	麒麟のまち各自治体で協議会は独自に進める。各町で抱えきれない場合には、鳥取市の協議会で検討・議論することを検討。
4. PF連携による価値や工夫_考え方			
・ 広域でのPF設立にあたって、まずは各地の温度感を高めるべく、各地域での研修の開催や支援者同士の交流会を開催し、圏域全体での支援体制の強化をする。 ・ つながりサポーターとして登録した人に対して、知識を広げたり、深めたりするとともにつながりサポーター同士で交流できる機会を提供することで、つながりサポーターとして活躍してもらえるようサポートする			

2. 連携PFイメージ

5. 連携PFのイメージ図



3. 試行的事業一覧					
6. 本年度に取り組む試行的事業の概要					
試行的事業のポイント・工夫		・ 鳥取市だけでなく麒麟のまち圏域でのPFの体制構築にむけて、各市町における理解促進を進める。圏域を超えて支援者がつながり、共感できる場を作る。			
	事業名称	事業内容	目的/期待効果・KPI	実施時期	発注先
①	麒麟のまち 孤独・孤立 対策官民連 携PFの開催	・ テーマごとにPFや会議体を作るのではなく、ゆるやかなPFを構築し、その時に合わせて、包括化されたPFや会議体のネットワークを活かして、プロジェクトや分科会として動けるような体制を検討した。 ・ 第1回は8月22日に実施し、顔合わせおよびやりたいことを募った。参加者は各自治体の担当レベル、社協、企業・団体で23～24名程度が参加した。 ・ 第2回は会議ではなく研修会の形式で、麒麟のまち圏域の各市町で実施した。 ・ 【講師を呼ぶ研修会の開催】鳥取市(12/7)、智頭町(1/26)、岩美町(2/21)、新温泉町(2/28) ・ (※八頭町、新温泉町、岩美町ではつながりサポーター養成研修も開催) ・ 第3回として、3月に今年度の振り返りおよび来年度の取り組みについて議論する予定。各市町村から多様な企業・団体等を提案、声掛けしてもらうことでPFを拡大していく。	・ 麒麟のまち圏域での一体的なPFの体制構築を行うこと ・ 市町の範囲を超えてリソースを共有し、一体的な支援を提供できるようにすること	1 回目 8 月 22 日 2 回目 12 月～2 月 3 回目 3 月 14 日	有識者謝金、交通費、宿泊費 (研修会4回、講師7名、50万円程度)
			成果検証結果	第1回 ✓ 各自治体の独自性を守りつつ連携することが必要であり、つながりサポーターを1つのキーワードとして連携できる可能性が示唆された。 ✓ 自治体によって温度感の差はあり、広域連携では都道府県等による自治体のモチベーションは重要 第2回 ✓ 各地単独では開催できなかった研修会を開催することができたことが好評であった ✓ 各地域で開催することで住民が参加しやすかったり、別の自治体職員が他地域を訪問し、交流するきっかけとなった	

②	麒麟のまち 支援職 つながり 交流会	- 講師に NPO 法人花 理事長 目崎 智恵子氏を呼び、講演を行った。 - さらに、支援職のかかえる困難について、支援職同士で話し、つながる機会とした。 - 問題解決を目指すものではなく、共感や共有の場とした。	- 支援職に対して課題の解決だけでなく、話を聞いたり、伴走する支援もあることをインプットすること - 支援職同士が市町の垣根を越えてつながること、同じ環境課にある支援者同士が共感、情報共有できる場を提供すること	11 月 11 日(月) 13:30～15:30	謝金、交通費、宿泊費 (2万円程度)
			成果 検証 結果	- 参加者は 37 名であった。20 代 8 名、30 代 8 名と若い世代の参加も多かった。 - 参加した支援職からは「多職種の人と交流できたことで、考え方の違いを知ることができた」、「地域とのつながりを考えていきたい」等の意見が得られた。 - また、今後の行動変容につながる内容として、もっとできることがあると思った、地域とのつながりをつくりたい、といった意見が出された。	
③	PF メンバーの視察研修	12 月 10 日～11 日に PF の参画団体と広島県福山市の「鞆の浦・さくらホーム」、香川県琴平町の「社会福祉法人琴平町社会福祉協議会」を視察し、意見交換を実施した。 - 成果を踏まえて PF の今後の活動に資するレポートを作成した。	PFメンバーの孤独・孤立対策についての理解を深めること、PFの活動方針について新たな視点を取り入れ、自ら考えてもらうこと。	12 月 10 日～11 日	日ノ丸産業株式会社(33 万円)
			成果 検証 結果	- 参加者レポートを通じて、視察で新たなアイデア等を知って、今後麒麟のまちでやりたいこと、やるとよいと思うことの案が複数挙げられた。 - 視察研修を通じて、PFメンバーの関係性の強化やつながりができた。	
④	取組のブランディング・広報	官民連携 PF やつながりサポーターの取組について、広く周知するだけでなく、地元にある良い取り組みとして愛着を持ってもらえるようブランディングを実施した。広報動画の作成と合わせて、養成研修の動画の内容も更新を行った。具体的には、広報としてどの手法が効果的なのかを把握するためにテレビ、ラジオ、SNS、チラシ、サイネージ等のメディア MIX での広報、地域でのコラボイベントの開催等を実施し、実施後に認知度調査を実施することで効果測定を行った。	- 官民連携 PF、つながりサポーターの存在を広く周知すること - 官民連携 PF、つながりサポーターを地元の良い取り組みとして愛着を持ってもらうこと	12 月～2 月	m&m.co (69 万円)
			成果 検証 結果	広報実施後のアンケートではつながりサポーターの認知度は 41%となった。どこで知ったかでは、新聞折込の効果が高い可能性が示唆された。また、TVCM の効果も確認された。	

⑤	つながりサポーター養成研修の開催	- 麒麟のまちの各町からの希望をとり、鳥取市以外の麒麟のまちにおいてもつながりサポーター養成研修の集合型研修を開催する。 【PFの一環として各地で開催した研修】 職員向け：八頭町(12/20)、民生・児童委員向け：新温泉町、岩美町 - つながりサポーターの展開にむけて、ニーズを受けて以下の研修について検討を実施した。 - 専門職向けのつながりサポーター養成研修 一般市民よりもケースを専門職の実態に即した形とする方針で検討した。10月9日(水)に検討会を開催し、求められる視点や内容を議論した。 - つながりサポーターフォローアップ研修 つながりサポーターとして登録した人を対象にフォローアップとして、情報の再確認や、新しい情報のインプットを行う研修を開催した。鳥取大学医学部孫大輔氏を講師に呼び、新しい知識やスキルのインプット、グループワーク、研修を行った。研修後はつながりサポーター同士の交流の場とした。 - つながりサポーターリーダー養成研修 つながりサポーターの事業拡大に伴い、グループワークのファシリテーター、将来的には研修そのものを運営できる人材の養成、確保にむけてリーダー養成の研修も今後検討していく予定	- 麒麟での広域のPFにおいて共通のキーボードとしてつながりサポーターを育成すること。 - 専門職に伴走支援の情報を提供したり、つながりサポーターとして登録した人を対象に知識を広げたり、つながりサポーター養成研修の拡大にむけて人材を育成するなど、今後の展開についても検討すること。	【通常開催】 5/20、6/17、7/15、8/23、9/23、10/21、11/18、12/16 【地域での開催】 5月～2月 【その他出前研修】 7月～2月 【つながりサポーターフォローアップ研修】 11/7 【展開の検討】 10/9に検討会を実施	— 費用なし つながりサポーターフォローアップ研修は別事業で推進
		成果検証結果	✓ つながりサポーターを広域連携のキーワードとして拡大するため、各地域からの要望に応じて研修を開催した。 ✓ つながりサポーター養成研修については、支援職向けにより支援職に合ったケースをお題にした方が良いといった意見があるため、研修の内容を議論した。次年度に向けて方向性を定めていく。 ✓ つながりサポーターフォローアップ研修として、新しいことを知り、知識の幅を広げるための研修を開催した。 ✓ 今後つながりサポーター養成研修の拡大に向けて講師も担える人材の育成が必要になるため、つながりサポーターリーダー養成研修も次年度以降検討する。		
⑥	つながりミーティング	- つながりサポーターが今後地域を支えていくための基盤づくりとして、つながりサポーター同士、つながりサポーターと相談支援機関のつながりが必要だという声を受けて、交流の場としてつながりミーティングを開催した。 ▶河原中学校区(8/28) ▶高草中学校区(12/14)	つながりサポーターの研修・交流会を開催することで、つながりサポーターが地域で活動しやすい環境を整備する。	河原地区 8月28日 10:00～12:00 高草地区 12月14日 13:30～15:30	— 費用なし

			成果 検証 結果 ✓ つながりサポーターがどこにいるのか 知ることができたという声や、つな がりサポーターがつなぎ先の支援団体 と顔の見える関係ができたとの声が出 た。 ✓ 主体的に地域課題について話し合う 場面が見られた。 ✓ 一方で、もっと多くのつながりサポー ターとつながりたいといった意見も出 た。
--	--	--	--

7. 次年度以降に向けた事業等の案 ※PDCA サイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ(あれば)を列举

- ・ 令和7年度にPFの包括化を推進する
- ・ 継続的な運営体制の構築として令和8年度に向けてPFの法人化を目指す

8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響

- ・ 広報に関しては、令和5年度の市民意識調査では 23.3%の認知度だったところが、令和6年度の1月より実施したメディアミックスでの広報により認知度が約 20%上がった。
- ・ 広域連携に関しては、各町においても共通の課題であったなかで単町で事業化することの負担が軽減されることになり、好意的な受け止めがあったため、実施体制を構築することができた。

4. 連携PFの行程および実務上の留意点

【PF立ち上げから拡大までの行程】

実務上の留意点				
連携PFの行程	過年度	令和4年度:PFの立ち上げ 令和5年度:広域PFを検討	今年度	令和6年度:PFを広域化 PFの包括化、法人化を検討
(ア)初期段階				
主担当部署の 設定	R4 年度	■生活困窮者支援、重層的支援体制 整備事業に係る対応を行ってきた 総務部人権政策局中央人権福祉セ ンターが担当	—	—
(イ)準備段階				
地域の 現状把握	—	—	R6 年度 4月	■地域福祉調査において活動の認知 度を調査・把握 ■支援団体やつながりサポーターの 登録者ニーズを聞き取る ■広域連携にむけて、各地域の要望を 訪問して聞き取り
連携PFの 企画・設計	R4 年度	■PFの立ち上げ、つながりサポータ ー、相談支援包括化会議による孤 独・孤立のPFの体制を構築 ■住民が誰かとつながっている地域 社会を目標として「つながりサポー ター」を創設	R6 年度 4月	■支援団体やつながりサポーターの ニーズに応じて交流会や研修開催 し、データに基づき広報にも取り組 む方針とした ■広域のPFでは、全体会合と各地域 でのニーズに合わせたPFを開催
初期メンバー への声掛け	R4 年度	■これまでの活動ののなかで、すでに 連携を進めてきた部署との連携か ら開始		
取り組み テーマの設定	R4 年度 3月～		R6 年度 8月	■広域連携は、各地域の特性合わせ たテーマを取り扱うようにする ■つながりサポーターの養成が共通 のキーワードなる
関係団体の リストアップ(庁 外)	R4 年度 ～	■つながりサポーターの研修や出前 講座を開催することで、企業や団体 にもつながりサポーターへの登録 を促す		—
関係団体の リストアップ(庁 内※広域)	R5 年度 ～	■段階を踏んで、情報の事前提供と対 面での対話を重視し合意形成	R6 年度	■段階を踏んで、情報の事前提供と対 面での対話を重視し合意形成
(ウ)設立段階				
連携PFの 運営	R5 年度	■つながりサポーター養成研修を開 催し拡大、要望に応じて出前講座等 も対応	R6 年度 2月	■広域のPFでは、全体会合と各地域 でのニーズに合わせたPFを開催 ■つながりミーティングでつながりサ ポーター同士のつながりづくりを支 援
域内住民・団体 への情報発信	—	—	—	■メディア MIX での広報でつながり サポーターの認知度を高める
(エ)自走段階				
地域協議会の設 置	R4 年度	■相談支援包括化推進会議において 地域協議会の役割を担う	—	—
PFの拡大・ 活性化	R5 年度	■広域連携にむけて、段階を踏んで、 情報の事前提供と対面での対話を 重視し合意形成 ■広域連携にむけて、各地域の要望 を訪問して聞き取り	R7 年度 ～	■様々なテーマを持ち込める体制と して、PFの包括化を目指す ■PFの持続可能な体制整備としてP Fの法人化の検討を進める

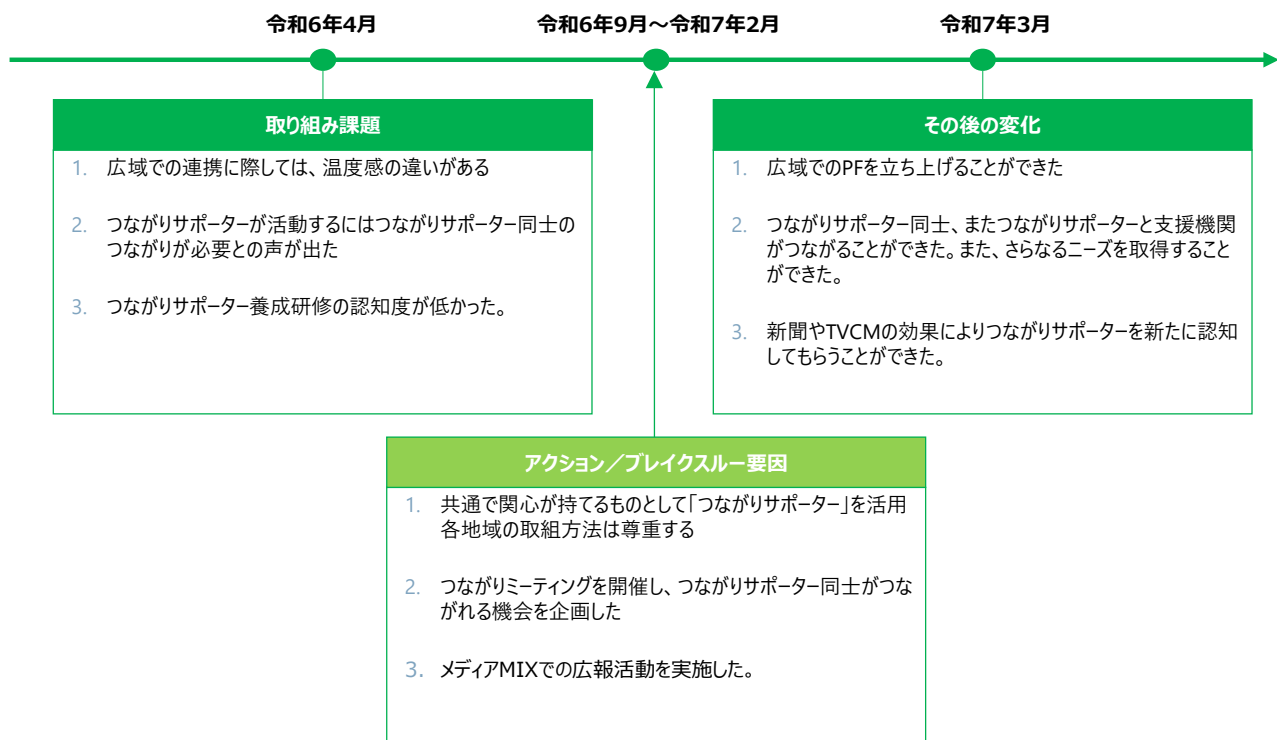
【それぞれの段階での留意】

(ア)初期段階		
①	主担当部署の設定	■これまで、生活困窮者支援、重層的支援体制整備事業に係る対応を行ってきた総務部人権政策局中央人権福祉センターが担当 これまで、生活困窮者支援、重層的支援体制整備事業に関する対応、および生活困窮事業として地域食堂ネットワークの事業推進を行ってきた総務部人権政策局中央人権福祉センターが担当した。住民が相談し易く、役所の制約にとらわれずに柔軟に対応する観点から、市役所の外に窓口(人権センター)を設置している。
②	担当者の初動	■広域での合意形成ために関係者に順番に話を展開 令和4年度に立ち上げたPFの広域化の検討として、令和5年度に検討・調整。鳥取市で合意を得たうえで、各市町の福祉課、企画課、首長会議の順で合意形成し、その後、各地域の担当課および社協との調整を進めた。調整においては、食支援の活動を担っていることもあるため、事前に情報をインプットする、直接会って話すようにしていた。
(イ)準備段階		
③	地域の現状把握	■地域福祉調査において活動の認知度を調査・把握 - 令和6年1月に地域福祉に関する意識調査を実施し、つながりサポーターの認知度が23.3%と、地域食堂の70.4%と比較して低く、周知啓発が必要であることを把握した。 ■支援団体やつながりサポーターの登録者ニーズを聞き取る - つながりサポーターについては、研修の内容やステップアップ、交流会等のニーズを登録者から把握した。 ■広域連携にむけて、各地域の要望を訪問して聞き取り - 広域連携の事前調整の中で各地域を訪問し、広域のPFについて説明するとともに、地域課題や実施したいことなどを聞き取りした。
④-1	取組テーマ決定	■広域連携は、各地域の特性に合わせたテーマを取り扱えるようにする - 広域連携では、地域特性が異なるため、画一的な取り組みは適さない。PFは多様な主体が価値観を共有する場、テーマを持ち込みそれぞれの知恵やリソースを踏まえて議論ができる場とする。 ■つながりサポーターの養成が共通のキーワードになる - つながりサポーターの養成については、共通のキーワードとして地域横断的に取り組めるものとなった。
④-2	連携PFの企画・設計	■支援団体やつながりサポーターのニーズに応じて交流会や研修を開催し、データに基づき広報にも取り組む方針とした - 支援団体や登録者のニーズを受けて、つながりサポーター同士、つながりサポーターと支援団体の交流の場としてつながりミーティングを企画 ■広域のPFでは、全体会合と各地域でのニーズに合わせたPFを開催 - 第1回、第3回では、麒麟のまち圏域の市町職員や社協職員でのPF会合を開催した。第2回では、各地域で講師を呼んだ研修会やつながりサポーター養成研修を開催した。各地域のニーズに合わせた内容の研修を開催するだけでなく、各地で開催することで職員同士の交流ができた。
⑤	関係団体のリストアップ 初期メンバーへの声掛け	■段階を踏んで、情報の事前提供と対面での対話を重視し合意形成 広域連携を推進する上では、麒麟のまち圏域で実施する方法として、各市町において、担当する福祉部局で合意形成⇒企画課で合意形成⇒首長レベルで合意形成⇒担当部局で連携を進めるという手順を進めた。孤独・孤立は地域特性に関わらず共通の課題としてとらえることができた。
		■つながりサポーターの研修や出前講座を開催することで、企業や団体にもつながりサポーターへの登録を促す つながりサポーター養成研修が1つのツールとなり、研修を受講しに来る人がいるだけでなく、企業や団体から出前講座の依頼があるため、研修を開催し、つながりサポーターへの登録を促している。

(ウ)設立段階		
⑥	域内住民・団体への 情報発信	■メディア MIX での広報でつながりサポーターの認知度を高める ・ つながりサポーターの認知度向上のため、複数の媒体によるメディア MIX での広報活動を実施。広報実施後のアンケートではつながりサポーターの認知度は 41%となった。新聞折込やTVCMの効果が高い可能性が示唆された。サイネージ等については反響が少なかった。
⑦	連携PFの運営	■広域のPFでは、全体会合と各地域でのニーズに合わせたPFを開催 ・ 第1回、第3回では、麒麟のまち圏域の市町職員や社協職員でのPF会合を開催した。第2回では、各地域で講師を呼んだ研修会やつながりサポーター養成研修を開催した。各地域のニーズに合わせた内容の研修を開催するだけでなく、各地で開催することで職員同士の交流ができた。 ■つながりミーティングでつながりサポーター同士のつながりづくりを支援 ・ つながりサポーター同士やつながりサポーターと相談支援機関がつながる必要があるといった意見を踏まえて、つながりミーティングを開催した。

(エ)自走段階		
⑧	地域協議会の設置	■相談支援包括化推進会議において地域協議会の役割を担う 鳥取市では、相談支援包括化推進会議において、対象者への個別支援を推進する。相談支援包括化推進会議では必要な機関が守秘義務をもって情報共有を行うことができる。PFから支援に必要なノウハウやリソースを提供する。
⑨	PFの拡大・活性化	■様々なテーマを持ち込める体制として、PFの包括化を目指す ・ 令和7年度をめどにPFの包括化として、PFに多様な主体が参加し、様々なテーマを持ち込めるようにする体制を整備する。 ■PFの持続可能な体制整備としてPFの法人化の検討を進める ・ 令和7年度にPFを継続的に運営できる体制を確保するために、PFの法人化を検討し、令和8年度の法人化を目指す。

ブレイクスルー要因	
アクション/ ブレイクスルー要因	■<u>広域での連携にむけて共通で関心が持てるものとして「つながりサポーター」を活用しつつ、各地域の取組方法は尊重して設計した</u> ・ 広域での連携においては、各地域で体制や、地域課題やテーマに対する温度感が異なるため、各地域の考えを尊重するようにした。 ・ PFにおいては各地域の課題に合わせて研修会の開催等が各地域でできるようにしたことで、地域にメリットがあるだけでなく、各地のイベントにそれぞれの担当者が参加することで地域間の交流が生まれた。 ・ 支援体制として地域協議会については、各地域の支援体制に応じて体制を構築するものとし、PFの活動とつながりサポーターの養成を連携して進めることとした。
	■<u>つながりサポーター同士、つながりサポーターと相談支援機関のつながりを形成するつながりミーティングを企画</u> ・ つながりサポーターが活躍するにはつながりサポーター同士、つながりサポーターと相談支援機関のつながりが必要との声を受けて、つながりミーティングを企画した ・ 主体的に地域課題について話し合う場面がみられた。 ・ 当日参加者からはつながりサポーターがどこにいるかわかったり、つながりサポーターがつなぐべき相談支援機関の方の顔を知れたという声が聞かれた。一方で、さらなるつながりの強化を求める声も意見として出た。
	■<u>つながりサポーターの認知度向上のためにメディア MIX での広報を実施</u> ・ つながりサポーターの認知度が地域食堂等と比べて低いことを課題としてつながりサポーターの広報を様々なメディアを通じて実施した。具体的にはテレビ、ラジオ、サイネージ広告、チラシ、コラボイベントを実施。広報実施後のアンケートではつながりサポーターの認知度は 41%となった。新聞折込やTVCMの効果が高い可能性が示唆された。サイネージ等については反響が少なかった。



コラム ～地域の支援団体から見た孤独・孤立対策と連携PFの重要性～

社会福祉法人 鳥取福祉会

保育園からはじまり、老人ホーム、デイサービスなどの高齢者支援、公益事業として居宅介護支援事業、地域包括支援センター3か所の運営を担う。さらには、地域食堂ネットワークの共同代表や、デイサービス車両を活用した食材配送支援等の地域貢献も行うなど鳥取市内で幅広い支援活動を行う。

📍 広域で・多様なテーマアで取り組んでいくためには、各団体が拡大するのではなく“連携”

- 鳥取福祉会の活動は鳥取市内で行っており、市外で活動することはあまりない。しかし、市外のケースについては、県社協等を通じて協力を仰ぎ、支援をつないでいく。包括支援センターにおいても対象外のケースが来たらまずは受け止めて、つなぐところまで業務として遂行する。個別の団体で拡大しようとせず、連携によって広がっていけばよい。

📍 テーマを絞らない人材の育成、体制の拡充が必要

- 今後、高齢化の進行や、つながりサポーターが発展して対象者が多く見つかるようになると、対象者の数が増えていく。また、はざまの支援のために対象の範囲や守備範囲も広がっていく。突発対応も多く、限られた人材で迅速に対処することは難しくなっていくため、テーマを絞らない人材育成や、範囲に合わせた体制の拡充が求められる。
- 鳥取福祉会では人権教育を毎年計画し、社会背景にあった教育を行っている。その一環で、つながりサポーター養成研修についても3年かけて全職員に受講してもらう計画である。つながりミーティングにも参加しており、大学生や地域の人とつながることで、多世代での考え方の違いや地域に求められる活動を把握している。

📍 支援をつなぐためには、顔が見える関係だけでなく、価値観を共有する必要がある

- 民生委員さんとのつながりづくりのために、民生委員の定例会に参加したり、日頃から声掛けをして、顔が見える関係を構築してきた。民生委員の方も施設につなぐのではなく、人につないでくれるので、顔が見える関係は重要である。
- 一方で、支援をつないでいくためには、顔が見えるだけでなく、価値観も共有していく必要がある。複合的な課題には一体的に取り組む必要があるが、分野や対象者が異なると、支援に介入する基準や大切にしているものの思想が異なるケースもあり、それが支援をつなぐ障壁になりうる。

📍 つながることで行政や地域の課題が見えてくる、その課題解決に法人として関わっていく

- 鳥取福祉会は、行政や地域とつながり、その課題を知り、法人として課題解決に関わってきたことで、多岐にわたる分野での活動に広がった。食材配送の支援も、地域の課題を知って、法人でできることを考えた結果、昼間に空いているデイサービスの車両を地域食堂の食材配達に活用できるといった地域貢献のあり方につながった。企業や法人は一定地域に貢献したいと思っていると思うが、その方法がわからないケースは多いと思う。



孤独・孤立問題の解決には
「人と人がつながる」ことが
そのスタートになると考えます。
つながりを求める手がそこにあれば
誰かがその手を握り、
そして必要な支援へとつながる。
温もりある「つながり」が
地域社会に求められているのだと思います。
今後も、地域の声に耳を傾け、
福祉ニーズに取り組んで参ります。

社会福祉法人鳥取福祉会 法人本部
企画課長兼保育課長 上根 拓也

5.自治体等との打合せ記録一覧				
No.	日時	打合せ相手団体	出席者	
			打合せ相手	NRI
1	8/21(水) 15:00-16:30	鳥取市 中央人権センター	川口様	生駒、橘、 小田、山崎
		鳥取市 人権政策局	谷口様	
		NPO 法人 地域共生とっとり	竹本様、小嶋様(鳥取市 孤独・孤立対策推進員)	
2	9/11(水) 9:00-10:30	NPO 法人 地域共生とっとり	竹本様、小嶋様(鳥取市 孤独・孤立対策推進員)	生駒、橘、 小田、山崎
3	10/18(金) 9:00-11:00	鳥取市 中央人権センター	川口様	生駒、橘、 小田、山崎
		NPO 法人 地域共生とっとり	竹本様、小嶋様(鳥取市 孤独・孤立対策推進員)	
4	11/11(月) 13:30-15:30	鳥取市 中央人権センター	川口様	橘
		NPO 法人 地域共生とっとり	竹本様、小嶋様(鳥取市 孤独・孤立対策推進員)	
5	12/7(土) 13:00-15:30	鳥取市 中央人権センター	川口様	生駒、橘
		NPO 法人 地域共生とっとり	竹本様、小嶋様(鳥取市 孤独・孤立対策推進員)	
6	12/14(土) 13:30-15:30	鳥取市 中央人権センター	川口様	橘
		NPO 法人 地域共生とっとり	竹本様、小嶋様(鳥取市 孤独・孤立対策推進員)	
6	12/27(金) 10:00-11:30	鳥取市 中央人権センター	川口様	橘
		NPO 法人 地域共生とっとり	竹本様、小嶋様(鳥取市 孤独・孤立対策推進員)	
7	2/6(木) 10:00-11:00	智頭町 福祉課	高垣様	生駒、橘
8	2/6(木) 13:00-15:00	鳥取市 中央人権センター	川口様	生駒、橘
		NPO 法人 地域共生とっとり	小嶋様(鳥取市 孤独・ 孤立対策推進員)	
		新温泉町 社会福祉協議会	平澤様	
9	2/7(金) 9:00-10:30	鳥取市 中央人権センター	川口様	生駒、橘
		NPO 法人 地域共生とっとり	小嶋様(鳥取市 孤独・ 孤立対策推進員)	
10	2/14(金) 11:00-12:00	NPO 法人 地域共生とっとり	小嶋様(鳥取市 孤独・ 孤立対策推進員)	橘
		鳥取福祉会	上根様	
		鳥取市 中央人権センター	川口様	
11	2/28(金) 14:00-15:30	NPO 法人 地域共生とっとり	竹本様、小嶋様(鳥取市 孤独・孤立対策推進員)	生駒、橘
		新温泉町 社会福祉協議会	平澤様	

自治体による従前からの取組

■ つながりサポーター養成研修

（取組概要）

令和4年度から深刻化する「社会的孤立」に対応するため、支援の第一歩としてまずは地域の住民同士で「つながる」ことが重要となることから、地域住民との顔の見える関係づくりや見守り活動といったつながりづくりを行うサポーターの養成を行っている。

（実施内容）

- ・孤独・孤立に関する有識者・専門家による講義
- ・孤独・孤立ケースに関するグループワーク
- ・孤独・孤立に関する研修教材としての書籍の配布
- ・サポーターへの参加を促す PR 動画の撮影
- ・サポーターへ認定された方への修了証とバッジの配布

試行的事業	
① 麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携PFの開催	
概要	- 麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携PFを開催した。 - 第1回は顔合わせとして全体会合を鳥取市で開催し、第2回は各地域で講師を呼ぶ研修会を開催した。第3回として令和6年度 of 取組の振り返り会を3月に開催する予定である。
ねらい	- 麒麟のまち圏域での一体的なPFの体制構築を行うこと。 - 市町の範囲を超えてリソースを共有し、一体的な支援を提供できるようにすること。
工夫点	- 昨年度に方針決定した広域でのPFを立ち上げ、各地域の意向を確認しつつ広域での連携をすすめた。 - テーマごとにPFや会議体を作るのではなく、柔軟なPFを構築し、必要に応じてプロジェクトや分科会として動ける体制を検討した。
結果	- 研修会を開催できたことが好評で、住民が参加しやすく、自治体職員が他地域を訪問し交流するきっかけとなった。 - 今後のPFの体制や取組事項の整理ができた。

(実施概要)

- 昨年度広域でのPFの形成について合意形成され、今年度より麒麟のまち圏域でのPFが開催された。今後は、テーマごとにPFや会議体を作るのではなく、ゆるやかなPFを構築し、必要に応じてテーマごとにプロジェクト型で包括されたPFや会議体のネットワークを活かして動ける体制を目指す。
- 第1回のPF会合は、8月22日に実施し、顔合わせおよび今後PFで実施したいことを募った。
参加者は各自治体の担当レベル、社協で23～24名程度が参加した。
 - 広域で連携する上では、各自治体の支援体制等が異なるため、各自治体の取り組み方は尊重する必要があるといった意見が出た。
 - 一方で、つながりサポーターは取り組みたいという意向が鳥取市外でもあり、広域PF全体で推進していくこととなった。

PF参画団体(28団体)

岩美町	健康福祉課 生活福祉係	一般社団法人	ひだまり
	岩美町社会福祉協議会	協同組合	鳥取県生活協同組合
若桜町	福祉保健課 福祉係	社会福祉法人	鳥取医療生活協同組合
	若桜町社会福祉協議会		鳥取市社会福祉協議会
智頭町	福祉課		鳥取福祉会
八頭町	福祉課	企業・団体	地域でくらす会「いくのさん家」
	八頭町社会福祉協議会		日本郵便株式会社
香美町	福祉課 社会福祉係		株式会社鳥取銀行
	香美町社会福祉協議会		株式会社アクス
新温泉町	福祉課		株式会社つむぎ
	新温泉町社会福祉協議会		鳥取市人権教育協議会
鳥取市	総務部 人権政策局	医療関係	鳥取県東部医師会 在宅医療介護連携推進室
	福祉部 地域福祉課		
	福祉部 長寿社会課		
	福祉部 中央包括支援センター		
	人権政策局 人権推進課		

- 第2回は会議ではなく研修会の形式で、各地で実施した。鳥取市、智頭町、岩美町、新温泉町では、「つながりって！？講演会」と題して、講師を呼び講演会を開催した。その他、八頭町、新温泉町、岩美町ではつながりサポーター養成研修を開催した。
 - 広域のPFにおいて開催場所が鳥取市ばかりだと遠方で参加しにくい、各地で講演会を開催することで鳥取市民以外の住民や支援者も参加することができた。
 - 各自治体だけでは、講師を呼び開催することが難しい講演会を広域連携によって開催できたという声があった。
 - 各地で開催することで、麒麟のまち圏域の自治体職員が、鳥取市以外にも自治体を訪問する機会ができ、自治体職員同士が交流する機会にもなった。

第2回のPFの開催状況

1	開催場所		日時	講師
	鳥取市	鳥取市役所 本庁舎 多目的室 2.3	12月7日 (土) 13:00～ 15:30	1) 厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室長 吉田昌司氏 2) 特定非営利活動法人抱樸 希望のまち事業部 部長 中間あやみ氏 3) 鳥取市中央人権福祉センター 所長 川口寿弘氏
	開催結果	参加者 21名	参加者からは、「つながりサポーターに求められていることが理解できた」、「自分から地域の人と関わることがつながりを作るうえで大事だと改めて思った」などの感想が得られた。	
2	開催場所		日時	講師
	智頭町	保険・医療・福祉総合センター “ほのぼの”内 ひだまりホール	1月26日 (日) 10:00～ 11:30	1) 社会福祉法人 高崎市社会福祉協議会 伊藤岳央氏
	開催結果	参加者 32名	参加者からは、「再犯防止の取組について知ることができた」、「他地域の具体的な事例を知ることができた」といった感想や、「断らない関係性を築いていきたい」、「我々にもできる支援があるはずだと思った」などの今後に向けた前向きな意見が得られた。	
3	開催場所		日時	講師
	岩美町	岩美すこやかセンター 2階 大会議室	2月21日 (金) 14:00～ 15:30	1) 美作大学 社会福祉学科 講師 中島大棋氏 2) 松江市社会福祉協議会 生活支援課 副主任 三好良知氏
	開催結果	参加者 17名 ※悪天候のため8名欠席	- 参加者からは、「身寄りのない方という視点について深く考えたことがなかったので、新しい気付きになった」等の感想が得られた。 - また、「社協だからできることを聞いて、経験が少ない自分でもできることからやってみようと思った」、「今後身寄りのない人が増えるため、サービスを検討していけないといけない」といった今後に向けた意見が出た。	
4	開催場所		日時	講師
	新温泉町	新温泉町文化体育館・夢ホール	2月28日 (金) 14:00～ 15:30	1) 一般社団法人コットンmam 渡邊美代子氏 2) 当事者だった少年
	開催結果	参加者 52名	参加者からは「つながりがいないことで、居場所を求めてさまよっている人がいることを知った」、「田舎でも起こりうること、身近にあると感じた」などの感想が得られた。	

		「支援者として自分の人との関わり方をもう一度見直さなければという気持ちになった」、「生の声を聴くことで手を差し伸べる必要性を感じた」などの意見が出た。
--	--	---

つながりって講演会 in 鳥取の様子



つながりって講演会 in 新温泉町の様子



令和6年度地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業
令和6年度麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業

つながいって！？講演会

☆誰もが住み続けたいあたたかい地域づくり☆

地域には、様々な生きづらさを抱えながら暮らしている方がたくさんいます。今回の講演会では、特に罪を犯してしまった方々の生きづらさについて知り、講師の方の取り組みを伺いながら、「どのような支援が必要か」、「どうすれば誰もが共に暮らしていける地域にしていけるか」について一緒に考えましょう！

◇講師

社会福祉法人高崎市社会福祉協議会 伊藤 岳央氏



◇プロフィール

- 令和6年4月～現在
地域福祉係長、なんでも福祉相談員、日常生活自立支援事業の専門員、生活福祉資金
- 一般社団法人群馬県社会福祉士会 常務理事
- 群馬県社会福祉士会リーガルソーシャルワーク委員会 委員長
- ぐんま・つなごうネット 世話人
- 高崎市障害者自立支援判定審査会 委員
- 特定非営利活動法人花 理事

☆日時：2025年1月26日（日） 10：00～11：30

☆会場：智頭町保健・医療・福祉総合センター“ほのぼの”内
ひだまりホール（智頭町大字智頭1875番地）

☆対象：関心のある方どなたでも

☆定員：100名（要予約）

※申し込み締切：1月24日（金）17：00

☆参加費：無料

お申込・お問い合わせ先

鳥取市中央人権福祉センター 担当：[REDACTED]

電話申込：[REDACTED]

メール申込：[REDACTED]

第2回のPFの開催概要

令和6年度麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業

12/7(土) つながりって！？ 講演会 in 鳥取市（仮称） 開催概要

【テーマ】

- ・地域共生社会の実現に向けた地域づくりを考える

【日時】12月7日(土) 13:00～15:30

【場所】鳥取役所本庁舎 多目的室 2.3（鳥取県鳥取市幸町 71 番地）

【対象者】関心のある方どなたでも

【定員】40 名

【講師依頼予定】

- ・厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室長 吉田昌司氏
- ・特定非営利活動法人抱樸 希望のまち事業部 部長 中間あやみ氏

【内容案】

- ① 13:00～13:35 開会
- ② 13:35～14:15 吉田さまによる講義（40 分）
 - ・「地域共生社会の実現に向けたつながりについて考える」
- ③ 14:15～14:45 中間さまによる取組紹介（30 分）
 - ・「北九州市の取組紹介 孤独・孤立対策とまちづくり」
- ④ 14:45～14:55 川口所長による取組紹介（10 分）
 - ・「鳥取市の取組紹介 地域食堂事業を基盤にした孤独・孤立対策」
- ⑤ 14:55～15:25 吉田さま、中間さま、川口所長による鼎談（30 分）
 - ・「人と人とのつながりや地域づくりがなぜ必要なのか」
- ⑥ 15:25～15:30 閉会

(関連資料)

第2回のPFの依頼状

令和6年11月吉日

厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課
福祉人材確保対策室 室長
吉田昌司様

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-9-2
大手町フィナンシャルシティグランキューブ
株式会社 野村総合研究所
コンサルティング事業本部
社会システムコンサルティング部
[REDACTED]

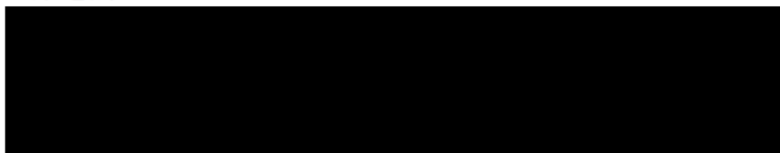
「つながりって！？講演会 in 鳥取市（仮称）」における登壇の依頼について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より格段のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、鳥取市では、内閣府の地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業を実施しております。その一環として、孤独・孤立の問題について、支援者同士がつながり、孤独・孤立の理解を深めるとともに、広く住民に対し孤独・孤立対策の推進を周知していくための、「つながりって！？講演会 in 鳥取市（仮称）」を開催いたします。つきましては、上記フォーラムへのご登壇をお願いいたします。

記

- 1 「つながりって！？講演会 in 鳥取市（仮称）」における講演
- 2 開催日時：令和6年12月7日（土）13:00～15:30
- 3 場所：鳥取役所本庁舎 多目的室 2.3（鳥取県鳥取市幸町 71 番地）
- 4 謝金：－
- 5 担当者連絡先



② 麒麟のまち支援職つながり交流会	
概要	支援職のつながりづくりを目的に支援職つながり交流会を開催した。講師に NPO 法人花 理事長 目崎 智恵子氏を呼び、講演を行っていただき、さらに、支援職のかかえる困難について、支援職同士で話す機会とした。
ねらい	支援職に対して、課題解決だけでなく、話を聞いたり伴走する支援もあることを伝えること。また、支援職同士が市町の垣根を越えてつながり、共感や情報共有の場を提供すること。
工夫点	支援職同士がかかえる困難について話し合い、つながる機会をつくる。問題解決ではなく、共感や共有の場とする。
結果	参加した支援職からは「多職種の人と交流できたことで、考え方の違いを知ることができた」、「地域とのつながりを考えていきたい」等の意見が得られた。

(開催概要)

支援職のつながりづくりを目的に支援職つながり交流会を開催した。

講師に NPO 法人花 理事長 目崎 智恵子氏を呼び、講演を行っていただき、さらに、支援職のかかえる困難について、支援職同士で話す機会とした。つながり交流会では、問題解決を目指すものではなく、共感や共有の場として、日頃の想いや考えについて支援職同士で意見交換を実施した。

開催の様子



(開催結果)

参加者は 37 名で、20 代 8 名、30 代 8 名と若い世代の参加も多かった。アンケート結果では、以下のような意見が得られた。(一部抜粋)

他の職種との意見交換がよかった	- 多職種の方の声や思いを聴けた - 色々な職種の人と話ができて良い刺激になった - 普段、関わりの少ない職種の方と話せた - 知らない話、情報を知ることができた - 色々な立場や職種で考え方も違うので良かった - 様々な分野からの参加があり、楽しかった。
つながりの重要性がわかった	- 連携する・つながりを作ることの大切さが理解しやすかった - 身近なところからのつながりが大切だと思った - つながることの必要性、重要性がわかった
今後に向けた抱負	- 包括としてできることがもっとあると思った。 - 地域とのつながりを作りたい。考えていきたい。

(工夫点)

グループワークでは、テーブルに模造紙を固定し、出た意見を模造紙に書きながら対話をする。1 回目のグループワークを実施した後、席を移動し別のメンバーとの対話を行う。2 回目のグループワークでは、その場に集まった人だけでなく 1 回目のグループワークでどんなことを話したのか、模造紙を見て知ることができる。

グループワークのメンバーは、1 回目は別業種、2 回目は同業種として、別業種の支援職の想いを知ったり、同業種の支援職と共感しあったりできるように工夫をした。また、広域で開催することで、日頃あまり同じ状況に置かれた人と話すことができないが、今日は共感できる人と会えたといった声が会場から聞かれた。

(関連資料)

チラシ

令和6年度地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業

麒麟のまち支援職つながり 交流会

支援職の皆様からご要望をいただき、交流会を開催いたします！
麒麟のまち圏域で活躍する支援職の皆様とつながりをつくりましょう (^^)/

日時 2024年11月11日(月) 13:30～15:30

会場 鳥取市役所本庁舎 多目的室1 (鳥取市幸町71番地)

対象者 麒麟のまち圏域で働かれている支援職の皆様
(自治体、社会福祉協議会、地域包括支援センター、隣保館、福祉事業所職員等)

プログラム ①講師による講演
②ワールドカフェ方式の交流会

～講師プロフィール～

 **目崎智恵子 氏**

- 群馬県高崎市第1層生活支援コーディネーター
- 公益財団法人さわやか福祉財団 共生社会推進リーダー
- NPO法人花 理事長
(コミュニティーカフェ和・総合相談処花)

経歴 H28年4月～第1層生活支援コーディネーター
介護保険運営協議会委員
H29年度から厚生労働省老人保健健康増進等事業に委員等で携わる。
前職では、認定NPO法人でインフォーマル事業の責任者や生活相談支援員を歴任。

☆お申込み・お問い合わせ☆

○鳥取市中央人権福祉センター 担当：[REDACTED]

・TEL [REDACTED]
・メール [REDACTED]

お電話かメールのどちらかでお申込みください。

③ PFメンバーの視察研修	
概要	12月10日～11日にPFの参画団体と広島県福山市の「鞆の浦・さくらホーム」、香川県琴平町の「社会福祉法人琴平町社会福祉協議会」を視察し、意見交換を実施した。成果を踏まえてPFの今後の活動に資するレポートを作成した。
ねらい	PFメンバーが孤独・孤立対策についての理解を深め、新たな視点を取り入れて自ら考えること。
工夫点	視察するだけでなく、意見交換会を開催するとともに、参加者に参加レポートとして今後の鳥取市および麒麟のまち圏域での取組に活かせることを検討、整理してもらった。
結果	- 視察で新たなアイデア等を知ることができ、参加者レポートを通じて今後麒麟のまちでやりたいこと、やるとよいと思うことの案が複数挙げられた。 - 視察研修を通じて、PFメンバーの関係性の強化やつながりづくりができた。

(実施概要)

日 時： 令和6年12月10日(月)～11日(火)

視察先： 12月10日(月) 広島県福山市「鞆の浦・さくらホーム」

12月11日(火) 香川県琴平町「社会福祉法人琴平町社会福祉協議会」

広島県福山市「鞆の浦・さくらホーム」では、PFの取組を紹介したのちに、「鞆の浦・さくらホーム」の取組についての説明を受けた後、施設および鞆町内の見学を実施した。最後に「麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携PFに取り入れたいこと」のテーマで意見交換を実施した。

「鞆の浦・さくらホーム」の視察の様子



香川県琴平町「社会福祉法人琴平町社会福祉協議会」でも同様に、PFの取組を紹介したのちに、「社会福祉法人琴平町社会福祉協議会」の取組を紹介いただいた。質疑の後意見交換会を開催した。

「社会福祉法人琴平町社会福祉協議会」の意見交換会の様子



意見交換会では、以下の意見が得られた。

- ✓ 地域性の違いはあるが、琴平町社会福祉協議会の広域連携の取組は麒麟のまちでも必要な視点である。それぞれの町の良さを活かせるような活動を考えていくべき。
- ✓ 住民が主体になるためには手の届く範囲で支援していくことが大事だと感じた。住民自身が自分たちの町をどう捉えるか、そこに対するアプローチができれば良い。
- ✓ どちらの視察先の町も、町全体が居場所になっており、安心感の得られる場と捉えて活動されていると感じた。鳥取市も自分が死んだ後も自分の意向が大事にされるような町にしていきたい。
- ✓ まちづくりの観点と顔の見える関係が重要だと感じた。麒麟のまちの取組でも重要にしていきたい点だと思う。
- ✓ 自治体はもっと現場に入り込み、地域づくりに取り組んでいくことが必要だと感じた。孤独・孤立対策も地域の文化にしていけるよう取り組んでいきたい。

また、参加者レポートでは、新たなアイデアを知ったり、意見交換をすることで、以下に示すようなテーマが今後麒麟のまちで実施するPFにおいて取組案として提起された。また、同行することでPFメンバーとの関係性を強化できた、関連事業の担い手を見つけることができた、多角的な意見交換ができたといった、視察の機会を活かすことができたという意見も得られた。

視察参加者レポート(一部抜粋)

今後やりたいこと、 やったらいいと思うこと	居場所づくり・まちづくり ・ 地域食堂の多機能化、地域拠点としての深化 ・ 利用者同士が交流できる居場所を沢山つくり孤立感を和らげるコミュニティの場所を作る。 ・ 有機的な第二～三層協議体の議論と展開、中学校区での取り組みの推進 ・ まちづくりの観点を含めること 住民の協働 ・ 各自治体において住民との協働による事業体制の再検討 ・ 地域での住民の役割づくり ・ 地域全体で見守りケアができる活動 ・ もっと地域に入っていくこと、行政や支援団体の職員の地域化 終活支援 ・ 身寄りのない方の終活支援とそれをサポートする基金の設立、地域全体で見守りケアが出来るような活動 支援者の連携 ・ 麒麟のまちの社協同士の交流と協働促進 ・ 地域共生の研修会
視察の良かった点	・ 鞆町でのさくらホームさんや琴平町での社協さんが取り組まれている課題には、鳥取市や麒麟のまち圏域が抱えているものと同じものも多分にあり、課題に対してのそれぞれの独自のアプローチをお聞きする度に「そんなことができるのか」と目から鱗が落ちるようで、大変有意義な視察であったと思う。 ・ 視察によりPFの構成員同士の関係強化や麒麟のまちのあるべき姿・価値観について議論、共有できる意義はとても大きい。 ・ 同行で関係が深まったことで、別の取組における担い手を新たに掘り起こすことにつながるなど、とてもありがたい機会となった。 ・ 様々な立場からの参加ということもあり、非常に多角的(医療、隣保事業、地域食堂、自治体)視点での意見交換ができた。

④ 取組のブランディング・広報	
概要	- 官民連携PFやつながりサポーターの取組について、広く周知するだけでなく、地元にある良い取り組みとして愛着を持ってもらえるようブランディングを実施した。広報動画の作成と合わせて、養成研修の動画の内容も更新を行った。 - 具体的には、広報としてどの手法が効果的なのかを把握するためにテレビ、ラジオ、SNS、チラシ、サイネージ等のメディア MIX での広報、地域でのコラボイベントの開催等を実施し、実施後に認知度調査を実施することで効果測定を行った。 - つながりサポーター拡大にむけて受講者に配布するピンバッジの制作も行った。
ねらい	官民連携PFとつながりサポーターの存在を広く周知し、地元の良い取り組みとして愛着を持ってもらうこと。
工夫点	広報の効果を把握するために、テレビ、ラジオ、SNS、チラシ、サイネージ等のメディア MIX での広報や地域でのコラボイベントを実施し、認知度調査で効果測定を行った。
結果	広報実施後のアンケートではつながりサポーターの認知度は 41%となった。どこで知ったかでは、新聞折込の効果が高い可能性が示唆された。また、TVCM の効果も確認された。

(実施概要)

① 広報の実施

つながりサポーターの認知度が未だ高くないことが課題となっていることをふまえ、広く麒麟のまち圏域においてつながりサポーターの認知拡大することを目的として、つながりサポーターの広報および広報に使用する素材の作成を行った。

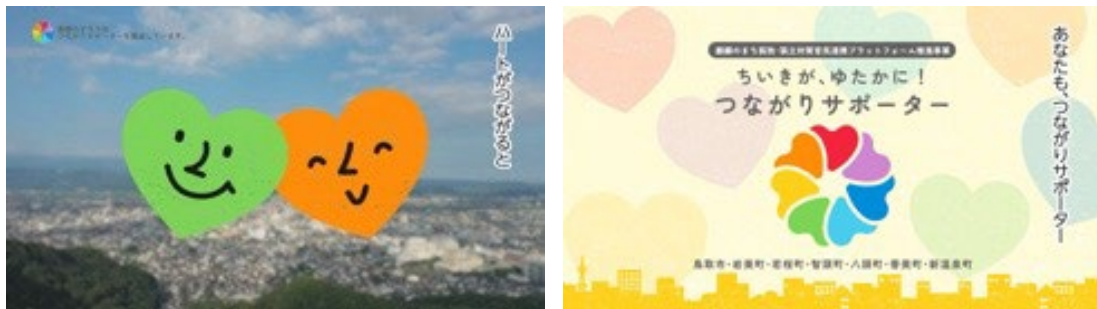
1) 動画を用いた広報

動画を用いた広報としては、テレビ、ケーブルテレビ、ラジオ、SNS、サイネージを通じて、15 秒～5分の動画を制作、放映することで広報を実施した。

動画広報の取組実績

媒体	内容・分量	出稿先	日程
テレビ	15 秒 CM 72 本(24 本×3 局)	日本海テレビ、さんいん中央テレビ、山陰放送	1 月 25 日(土)～2 月 22 日(土)
	1 分 インフォーマーシャル 3 本(3 本×1 局)	日本海テレビ	2 月 10 日(月)～2 月 12 日(水)
ケーブル	5 分 動画 ※令和5年度制作の動画から抜粋して制作	ぴよんぴよんネット	2 月 14 日(金)、2 月 15 日(土)
ラジオ	深堀！インフォメーション・トーク！ (地域情報無料お知らせ枠)	FM 鳥取	2 月 10 日(月)、2 月 22 日(土)
SNS	YouTube での動画広報	YouTube	1 月 25 日(土)～2 月 22 日(土)
サイネージ	屋外サイネージでの CM 放送	市役所周辺施設(鳥取まちビジョン、鳥取駅前、天神町)	1 月 25 日(土)～2 月 22 日(土)

CMの広報動画



1分・5分版の広報動画



サイネージの様子



2) 紙媒体の広報

紙媒体による広報として、新聞折込を制作し、鳥取市だけでなく麒麟のまち圏域の新聞に折り込み配布した。さらにポスターを制作し、行政や支援機関等の各拠点に貼りだして広報を実施した。

紙媒体の広報の取組実績

媒体	内容・分量	出稿先
新聞折込	B3 二つ折り 80,000部	日本海新聞の麒麟のまちエリアに折込を実施
ポスター	B2 250部	各拠点で貼付

折込チラシ



B3 ポスター



② コラボイベントの開催

山陰エリアでイベントを開催している山陰三ツ星マーケットとコラボレーションでのイベントを開催した。山陰三ツ星マーケットでは、ハンドメイドの雑貨や、食べ物などの出店があり、定期的にマルシェを開催している。今回はコラボイベントとして、通常の山陰三ツ星マーケットの開催に加えて、つながりサポーターPRブースを設置し広報を実施した。さらに先着100名に粗品をプレゼントする形で、つながりサポーターに関するアンケートも実施した。

開催概要は以下の通り

催事名: あなたとつながる DAY♪with 山陰三ツ星マーケット

日 程: 令和7年2月22日(土) 11:00~16:00

場 所: 鳥取砂丘コナン空港

内 容: 山陰三ツ星マーケット、つながりサポーターPR ブース

コラボイベントの広報



開催の様子



PR ブースの様子



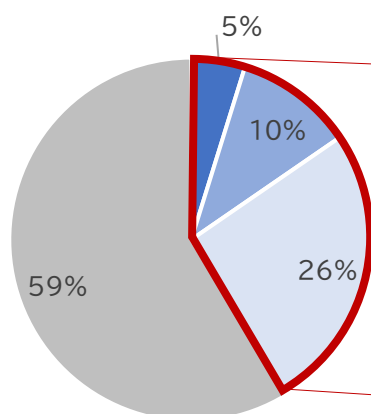
【広報の効果検証】

鳥取市の公式 LINE で告知を行い2月15日(土)～2月22日(土)にかけて、Google フォームでのアンケートを実施した。また、コラボイベントの会場でもアンケートを実施した。396名から回答があった。

結果として、つながりサポーターの認知度は「詳しく説明できる」、「大まかな説明ができる」、「聞いたことがある」をあわせて41%となった。令和6年1月に実施した地域福祉に関する意識調査では、地域食堂の認知度 70.4%に対して、つながりサポーターの認知度は 23.3%にとどまっていた。調査方法が異なるため単純比較はできないが、今回の調査においては、過去調査以上の認知度を観測することができた。

つながりサポーターを知っていますか？

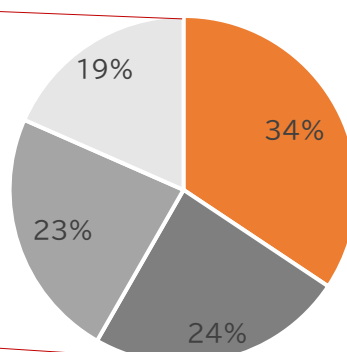
(N=396)



- 詳しく説明できる
- 大まかな説明ができる
- 聞いたことがある
- 知らない

いつ頃知りましたか？

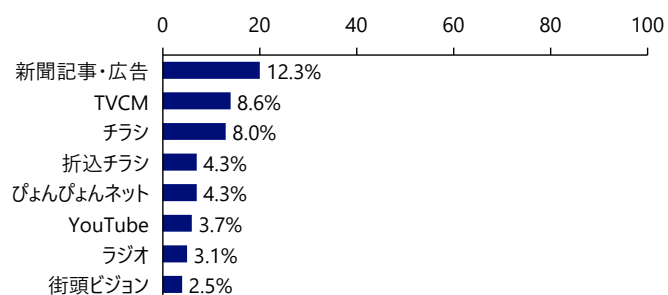
(N=163)



- 最近(R7.1～)
- 1年前(～R6.3)
- 半年前(～R6.12)
- 2年前(～R5.3)

つながりサポーターをどこで知ったのかという設問では、市報が最も多く 39.9%、次いで、養成研修、関連イベント(フォーラムや講演会)が多い結果となった。今回実施した広報では、新聞・広告が最も多く 12.3%、次いでテレビの 8.6%、チラシの 8.0%の順で多い結果となった。新聞による広報の効果が大きく見られた。ただし、新聞折込については、選択肢のうち、新聞記事・広告、チラシ、折込チラシに分散した可能性がある。

つながりサポーターを何で知りましたか？(N=163)



麒麟のまち孤独・孤立対策推進事業アンケート調査

麒麟のまち圏域で行っている、孤独・孤立対策としての「つながりサポーター」についてアンケートにご協力ください。

(該当する項目に○印をお願いいたします)

Q1 下記についてご回答ください

① 年代	・～10代 ・20代 ・30代 ・40代 ・50代 ・60代 ・70代～
② 性別	・男性 ・女性 ・その他
③ 住まい	・鳥取市 ・岩美町 ・若桜町 ・智頭町 ・八頭町 ・兵庫県香美町 ・兵庫県新温泉町 ・その他(鳥取県内) ・その他(鳥取県外)

Q2 「つながりサポーター」を知っていますか？

1) 詳しく説明できる 2) おまかな説明ができる 3) 聞いたことはある 4) 知らない

Q2で「知らない」以外の方のみご回答ください

Q3-1 いつ頃、知りましたか？

1) 最近(令和7年1月～) 2) 半年前(～令和6年12月) 3) 1年前(～令和6年3月) 4) 2年前(～令和5年3月)

Q3-2 どこで知りましたか？

・つながりサポーター養成研修に参加 ・関連イベント(フォーラム、講演会等) ・市報
・TVCM ・びよんぴょんネット(テレトピア) ・街頭ビジョン ・YouTube 広告
・新聞記事・広告 ・新聞折込チラシ ・チラシ ・HP ・その他()

Q4 つながりサポーターになりたい、取り組みに参加したいですか？

・すでにになっている ・なりたい ・どちらかといえばなりたい
・どちらかといえばなりたくない ・なりたくない ・分からない

Q5 それぞれ、理由を教えてください【自由記入】

Q6 孤独孤立対策(つながりサポーター)に関するお知らせを希望されますか？

・既に届いている ・希望する(郵送) ・希望する(メール) ・希望しない

Q6で希望する方のみご回答ください

Q7 お知らせの送付先を教えてください

1) 既に届いている 2) 希望する(送付方法: 郵送・メール・両方) 3) 希望しない

ふりがな		〒	
氏名		住所	
メール アドレス		電話番号	

※お知らせを希望される方は、連絡先をご記入ください。ご記入いただいた情報は、本事業以外には利用いたしません。

ご協力ありがとうございました

③ 動画の作成

今後継続的によりよい養成研修を開催することを目的として、映像の見直しを行い、データの更新や国の取組を最新情報に更新するなど、継続的に使用できるように修正を行った。

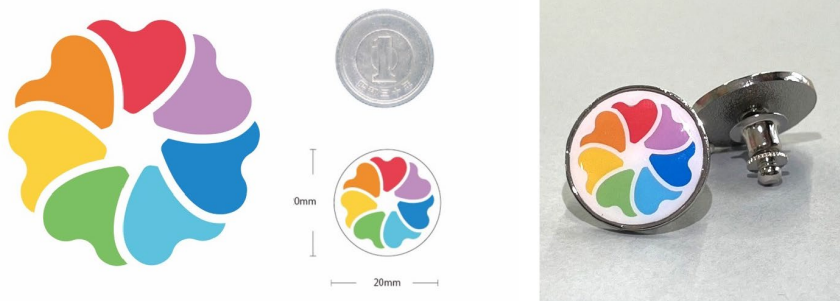
情報を更新した研修動画



④ ピンバッジの作成

つながりサポーターの修了証としてバッジを 500 個作成し、つながりサポーター養成研修の受講者に配布した。

つながりサポーター養成研修修了証のバッジ



(参考)

⑤ つながりサポーター養成研修の開催・展開	
概要	- 鳥取市以外の麒麟のまちにおいて、つながりサポーター養成研修の集合型研修を開催した。 【PFの一環として各地で開催した研修】 職員向け:八頭町(12/20)、 民生委員向け:新温泉町、岩美町 - つながりサポーターの展開にむけて、ニーズを受けて以下の研修について検討を実施した。 【専門職向けのつながりサポーター養成研修】 一般市民よりもケースを専門職の実態に即した形とする方針で検討した。 10月9日(水)に検討会を開催し、求められる視点や内容を議論した。 【つながりサポーターフォローアップ研修】 つながりサポーターとして登録した人を対象にフォローアップとして、情報の再確認や、新しい情報のインプットを行う研修を開催した。鳥取大学医学部孫大輔氏を講師に呼び、新しい知識やスキルのインプット、グループワーク、研修を行った。研修後はつながりサポーター同士の交流の場とした。 【つながりサポーターリーダー養成研修】 つながりサポーターの事業拡大に伴い、グループワークのファシリテーター、将来的には研修そのものを運営できる人材の養成、確保にむけてリーダー養成の研修も今後検討していく予定とした。
ねらい	- 麒麟での広域のPFにおいて共通のキーワードとしてつながりサポーターを育成すること。 - 専門職に伴走支援の情報を提供したり、つながりサポーターとして登録した人を対象に知識を広げたり、つながりサポーター養成研修の拡大にむけて人材を育成するなど、今後の展開についても検討すること。
工夫点	- 広域連携のきっかけとしてつながりサポーター養成研修を展開した。 - 今後のつながりサポーターの展開を見越して、登録した人が活躍できるように研修を実施したり、専門職向けの研修などを検討した。 - つながりサポーター養成研修が今後広がっていくことを見越してリーダーの必要性を検討していく予定。
結果	- つながりサポーターを広域連携のキーワードとして拡大するため、各地域からの要望に応じて研修を開催した。 - つながりサポーター養成研修の拡大にむけて必要なことを検討し、研修の種類(専門職向け)を増やす、受講後のつながりサポーターへの研修、つながりサポーター養成研修を担う人材の育成等を今後も進める。 ・つながりサポーター養成研修については、支援職向けにより支援職に会ったケースをお題にした方が良かったといった意見があるため、研修の内容を議論した。次年度に向けて方向性を定めていく。 ・登録後のつながりサポーターが活動できるように、フォローアップ研修として、新しいことを知り、知識の幅を広げるための研修を開催した。 ・今後つながりサポーター養成研修の拡大に向けて講師も担える人材の育成が必要になるため、つながりサポーターリーダー養成研修も次年度以降検討する。

開催の様子



(参考)

⑥ つながりミーティング	
概要	つながりサポーターが今後地域を支えていくための基盤づくりとして、つながりサポーター同士、つながりサポーターと支援団体のつながりが必要だという声を受けて、交流の場としてつながりミーティングを開催した。 ▶河原地区(8/28)、高草地区(12/14)
ねらい	つながりサポーターの研修・交流会を開催することで、つながりサポーターが地域で活動しやすい環境を整備する。
工夫点	- つながりサポーターとして活躍するためには、支援者が孤独では動きづらいため、支援者同士がつながれる場を提供すること。 - あわせて、つながりサポーターが支援につなぐ際に困らないようにつながりサポーターと支援機関の顔の見える関係を構築することも目指す。 - 地区別にグループを組むことで、より近い地域の人と知り合えるように工夫した。 - つながりサポーターへの負荷が高くなりすぎないように、参加者は希望制とした。
結果	つながりサポーターの所在を知ることができた、つながりサポーターと支援団体の顔の見える関係性ができた等という声があった。一方で、もっと多くのつながりサポーターとつながりたいという意見もあった。

(実施概要)

つながりサポーターが今後地域を支えていくための基盤づくりとして、つながりサポーター同士、つながりサポーターと支援団体のつながりが必要だという声を受けて、交流の場としてつながりミーティングを開催した。試行的事業の実施前の8月28日に河原地区で一度開催しており、12月14日に高草地区で開催した。

高草地区のつながりミーティングには、つながりサポーター12名と支援機関6名、その他5名が参加した。

開催の様子



参加者アンケートでは、地域の人と知り合うことができた、支援機関を知ることができたという意見が得られた。また、つながりサポーターの役割を理解することができたという意見も得られた。

アンケート結果(一部抜粋)

つながりをつくることができた	・ 地域の方と顔を合わせることができて、関係機関を知ることができて良かったです。 ・ この会を通じて、つながることができたのでとても良い機会でした。 ・ 包括支援センター等、支援機関が何をしているのか知ることができた。
つながりサポーターの活動や役割がわかった	・ 活動方法がなんとなくわかったように思う。 ・ つながりサポーターとして、どのように動いていけば良いのかを少し知ることができました。 ・ 今後の活動の道が少し見えたような気がしました。 ・ つながりサポーターの人が問題解決をしようとするのではなく、一人で抱え込まずにつなぐということを改めて意識することができた。

アンケートの「今日の会で新しいつながりができたか」の質問では 9%(2 名)が「できた」、76%(16 人)が「少しできた」と回答した。また、継続したつながりを持ちたい、今後もこのような気があるとよいといった意見が得られた。

